

# 議会だより

2012

10.16

第125号

『走れ跳べ守れ』を  
目標に努力しています！

●赤湯ミニバスケットスポーツ少年団



## 主な内容

9月定例会のあらまし	2
補正予算の目玉	3
予算・決算特別委員会質疑	4～5
一般質問	6～8
常任委員会報告	9～11
新文化会館建設検討特別委員会	12
議会行事報告等	13～14

# 平成23年度決算を認定

## 補正予算(6件)を可決

### あらまし

9月定例会が9月4日から21日までの18日間の会期で開催されました。今回の議案は報告1件・諮問1件・条例その他6件・補正予算6件・決算認定10件、合計24件が上程され、また請願は2件で所管の委員会に付託しました。初日には平成23年度南陽市健全化判断比率と資金不足比率について、いずれも前年度より改善されている旨報告がありました。また任期満了に伴う人権擁護委員候補者推薦案を原案通り同意し、企業立地促進条例の設定を含め6件の条例等の改正議案については所管の委員会に付託しました。補正予算案・決算認定案については、それぞれに特別委員会を設置し審査を付託しました。

補正予算案6件については、14日に審議され、一般会計補正予算案について、全員異議なく可決しました。18日には決算特別委員会を開催し、平成23年度の一般会計決算については、議員1名から反対意見が出されましたが起立採決の結果、賛成多数で認定しました。上下水道事業会計決算等の9議案は審議のうえ全て認定しました。一般会計決算では実質収支で6億9928万円余りの黒字決算となりました。なお、健全化判断比率の実質公債費比率は19.0%となり、前年度比1.3ポイント改善しました。今後財政の硬直化が懸念されることから、財政健全化へ向けて注視していきます。

### 23年度一般会計は 黒字決算

平成23年度の一般会計決算は小学校耐震補強整備事業や中学校再編整備事業がほぼ終了したことから、前年度と比較して歳入歳出とも大幅な減少となりました。実質収支で6億9928万円、単年度収支で2億2839万円の黒字決算となりました。また市債残高は168億6960万円で行

標値180億5900万円以内に収まり、前年度より2億2414万円減少しました。この黒字決算の主な要因は、

税収の落ち込みが比較的少なかったこと、税金の収納率が上がったことや地方交付税の増加があげられます。議員からは将来、消費税増税による市財政に対する影響などが質されましたが、賛成多数で決算報告を認定しました。

### 健全化判断比率の 報告を承認

収入に対する実質公債費比率は19.0%で前年比1.3ポイント、負担割合を示す将来負担比率は154.3%で12.6ポイントそれぞれ改善されました。市財政の健全化に向けては、新文化会館の建設も控えており、新たな市債の発行が予定されているので、これ以上財政が悪化しないように監視していかなくてはなりません。

### 請願審査結果

- **採択** 脳脊髄液減少症の医療についての請願  
請願者：脳脊髄液減少症友の会  
代表 荒川ミキ子
- **継続審査** 地方財政の充実・強化を求める請願  
請願者：日本労働組合総連合会、置賜地域協議会  
議長 菊地 清

### 新文化会館建設検討 特別委員会の 中間報告まとまる

議会の最終日には、

伊藤委員長より今まで8回にわたり検討されてきた中間報告が出されました。その詳しい内容については委員長報告の12頁をご覧下さい。ここではその趣旨のみ説明します。現在の市民会館の老朽化や耐震性を考慮し、建替えは妥当であり、市民の要望を充分取り入れ、今後の市財政を悪化させないようにすることなど6項目の条件を付け、建設に向けた取り組みを是とする内容です。

\*実質公債費比率…地方自治体の収入に対する借金返済額の比率

24年度補正予算  
**4億757万円**  
**ここに注目★**

**農林事業関係補助**

**652万円**

- ☆創意工夫プロジェクト支援事業補助  
農林漁業者等が策定した事業計画に支援を行います。
- ☆畜産規模拡大支援事業補助  
新たに畜産の事業を開始しようとするか、または規模を拡大しようとする畜産農家を支援するものです。
- ☆緊急稲わら確保事業補助  
県産稲わらを飼料用として緊急確保及び肥育農家への利用を図る取り組みに対して支援するものです。
- ☆農地集積協力金  
農業の担い手への農地集積を促す協力を追加するものです。

**赤湯駅北駐車場整備**

**770万円**

現在の赤湯駅北駐車場の入り口が狭く、出入りや冬期間の除雪が困難でした。駐車場に隣接する東側に、約2000m<sup>2</sup>程度の用地を購入、整備し、出入り口の幅と約10台程度の駐車台数の増加を図ります。



駅北駐車場を整備へ



駅東口と西口に防犯カメラ設置

**赤湯駅駐輪場防犯カメラ設置**

**200万円**

自転車盗難や車上荒らし等の犯罪を減らすため、市では関係団体での防犯診断や駅乗降客への施錠の呼びかけを行っております。この度、駅東口・西口に防犯カメラを設置することで、犯罪発生を抑止を図ります。

**その他の主な事業**

☆財政調整基金積立金	1.5億円	☆イベント用音響機器購入	90万円
☆市債元金繰上償還	2億円	☆市道上野北町線落石防止	450万円
☆市債元金償還金減額	▲8,910万円	☆小学校施設修理等	200万円
☆老人いこいの家施設修理	147万円	☆赤湯中学校体育館倉庫修理	78万円
☆発達障がい児相談支援委託	12万円	☆市立図書館修繕整備	68万円
☆障害児通所支援給付費	1,472万円	☆ないしょ話童謡祭補助	50万円
☆双松まちづくり協議会補助	40万円	☆市道凍上災復旧舗装修理	9,210万円



# 特別委員会の質疑

## 地方交付税配分の先送りで 本市への影響はないか

佐藤 明議員

◎公債特例法案が採択されずに、国からの交付税配分が先送りされた。本市への地方交付税に影響はないのか。

〈市長〉直接の影響は今のところはないと思われる。

◎県には影響があり、間接的にはどうなのか。

〈市長〉この状態が長くなり県支出金などに絡んでくれば、影響が間接的に出てくることも考えられるので注視していく。

◎関係省庁や県に対する本市の重要要望事項について、成果と結果の公表はどうなっているのか。

〈企画財政課長〉昨年度は19項目あり、反映したものの9件、一部反

映5件、反映しなかったものの5件で、結果について市報で公表していく。

◎菊まつり百回記念事業実施にむけて市長の決意を聞きたい。

〈市長〉市あげて成功に向けて全力をつくす。

## 地方交付税1億円の減は支障ないか

高橋 一郎 議員

◎地方交付税の1億9百万円の減額は、ある程度予想して収入全体としては支障がなかったという理解でよいのか。

〈企画財政課長〉交付

税の算定に用いる単位費用の減額や一律減額などの制度改正もあり、総じて1億円が減額になるとは予想していなかった。

## 熊などの被害状況と対応策は

板垣致江子 議員

◎熊を含めた鳥獣被害の南陽市の実態は。

〈危機管理課長〉熊の被害は28件報告あるが、かばちゃんなどの農作物の被害が主である。

〈農林課長〉平成22年度農林被害額は1千7百万円、23年度は1千5百60万円、本年度は集計中である。必要に応じて猟友会にお願いしている。その判断は、

環境とのバランスもあり県とも相談する。

◎農家にとつては相当大きい金額なので、きちんと調査し対策をとり予防に努めてほしい。

◎赤湯駅前駐車場の特製プランターは雑草がのびてひどい状態。花を植えるなど、環境美化に取り組んでほしい。

## 持家建設助成金の補正について

山口 正雄 議員

◎現在の申込状況は。

〈建設課長〉8月末現在10%助成分が77件、5%助成分は61件です。◎さらに申し込みがあれば補正対応するか。

〈市長〉冬場にむけての着工は少ないと思われるが申し込みがあれば対応していく。

## 武道授業の取り組みについて

片平 志朗 議員

◎武道アドバイザー予算減額と取組み状況は。

〈学校教育課長〉減額は雇用から委託に変えたことによる。有段者5名で11月から授業開始になる。女子指導者も加え、女子にも柔道の良さを教えていきたい。

◎柔道の授業で安全確保の対策は。

〈学校教育課長〉座つたままでの試技とか段階を踏んで、安全を第一に指導している。

# 決算 特別委員会の質疑

## 南陽病院の待ち時間対策を！

佐藤 明 議員

◎消費税が上がれば、  
税金が落ち込むのでは。  
対応策が必要ではない  
か。

◎南陽病院で予約制に  
もかわらず、待ち時  
間が長すぎる。対策の  
考えは。

〈市長〉国・県・市と  
も必要な手段を講じ、  
景気対策に力を入れざ  
るを得ないと思う。

〈保健課長〉南陽病院  
に改善するよう伝える。  
〈市長〉実態であれば、  
検討を指示したい。

## 向山球場南側駐車場に トイレ常設を要望

山口 正雄 議員

◎市の大会や中体連な  
ど参加チームや応援者  
も多い。当面は仮設対  
応でも、将来的には南  
側駐車場に常設トイレ  
を要望する。

## 避難児童の保育施設入所への 対応は充分か

高橋 一郎 議員

◎避難児童の保育施設  
入所実態は。

〈福祉課長〉保育所10  
名、中川児童館に1名。

〈学校教育課長〉幼稚  
園は赤湯29名、つばめ

6名、宮内1名。

◎入所できない児童は  
いないのか。

〈福祉課長〉赤湯乳幼  
児センターは満杯で、  
他施設へ調整している。  
3才児以上については  
お断わりしていない。

◎観光トレッキングガ  
イドの内容と効果は。

〈商工観光ブランド課長〉  
2名を雇用し、着地型  
旅行まちなか歩き事業  
として、3羽のうさぎ  
探し、赤湯まちなかの  
看板設置、手書きで味  
のある地図を作成し、  
温泉街に置き活用した。

◎団地内公園の放置さ  
れた除草物への市の対  
応は。

〈建設課長〉地域での  
管理が基本。大量であ  
れば相談に応ずる。

〈建設課長〉市道とし  
て管理しており、早速  
確認して対応したい。  
◎早急の対応をお願い  
したい。

## 高ツムジ山 道路整備を急ぐ

川合 猛 議員

◎高ツムジ山への道路  
が崖崩れしている。い  
つ補修工事を行うか。

〈建設課長〉市道とし

て管理しており、早速

確認して対応したい。

◎早急の対応をお願い  
したい。



トイレの設置が待たれる向山球場南駐車場



# 答 弁 要 旨

## 新たな龍物語による南陽市のイメージアップ戦略を！

高橋 一郎 議員



- ◎「おもちゃい・行ってみたい・住んでみたい南陽市」謎めいてわくわくする、魅力あるまちづくりにはストーリーが必要。「龍と獅子の棲むまごころの郷、南陽市」と称して南陽市全域を自然博物館にし、新文化会館などを拠点としたまちづくりをしてはどうか。
- 〈市長〉市内外から多くのご利用をいただくには、収容人数、コンベンション機能、コンセプトイメージが必要。基本設計を仕上げる際の課題として、「南陽オリジナル」の物語が描けるよう努める。
- ◎南陽ブランドの最たるものとして南陽スカイパークの飛行体験などの充実については。
- 〈市長〉今後とも、市民の皆様にも気軽に空の体験ができる場の提供に努めていく。
- ◎スポーツ施設の充実による交流と誘客の施策として、中央花公園人工芝グラウンドの照明設備の設置を。
- 〈市長〉来年度当初予算で検討するよう指示する。
- ◎多目的屋内競技場の建設を要望する。
- 〈市長〉冬期間の利用できる運動施設の確保が必要であることは認識しているが、将来的な課題として、市民ニーズを検証し検討する。
- ◎沖郷サッカー少スポ少ができて20年。沖郷中学校にサッカー部の創設を切望する。
- 〈教育長〉部活動の設置や改廃は、教職員の指導者の有無、活動場所の状況等を検討し、保護者や教職員の意見も踏まえ各学校で判断するのでご理解を。

## フェイスブックを活用し積極的なブランド推進を若い人の声が届きやすい行政に

白岩 孝夫 議員



- ◎現在の本市のブランド推進におけるインターネット、特にSNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）を利用した情報発信の必要性についての認識は。
- 〈市長〉現在の公式ホームページの更新運用は担当課で随時行っている。組織としてのSNS活用には、利用者のモラルなど問題点もあるため、周知の準備が必要。
- ◎山形県や財務省、防衛省など、SNS、とくにフェイスブックを活用する公共機関が増加している。新庄市商工観光課では予算ゼロでフェイスブックの公式ページを立ち上げた。デメリットよりもメリットが大きいと考えるが市長の認識は。
- 〈市長〉今後検討し、市として大変有効な手段であればぜひやりたい。やれる職員がいればぜひやってほしい。
- ◎ブランド推進を市として全庁挙げて横断的に行うための部署が必要ではないか。
- 〈市長〉ブランド推進課と商工観光課を統合したが、もつといい方法があれば改善改革し前に進めたい。
- ◎「情報発信主幹」のような担当者の設置を。
- 〈市長〉必要なら対応したい。兼任ならいつでも対応できると思う。早速検討したい。
- ◎「子育て支援都市宣言」も南陽ブランドの一つ。若い人向けに適した手段で情報発信を。また、行政に市民の声が届きやすい体制を。
- 〈市長〉ドリームランドなど、南陽の良さを若い人に大いにPRしたい。ご協力を願う。

※1 SNS…インターネット上で人とのつながりを作るサービスのこと  
※2 フェイスブック…ネット上で実名で交流する世界最大のSNS

## 学童保育の充実と拡充を！

片平 志朗 議員



◎全国の学童保育の利用児童数が過去最高の86万6919人となり、大規模な施設も増えている。保育環境の悪化は事故やケガが増え、また子供達の情緒不安定に結びつく。本市の学童保育の現況と課題は何か。

〈市長〉市内の学童保育施設数は9箇所、今年8月1日時点で入所児童数は、294人が利用している。学年別利用状況は1年生が102人とともに多い。3年生までの低学年の入所児童数は223人で、4～6年生の高学年は71人となっている。児童数全体の利用割合は約2割となっている。入所者の増加にともない平成22年4月に、こばと保育園内に沖郷第二学童保育施設を開設し増加に対応



学童保育所で遊ぶ子供たち

した。今年度も赤湯学童保育施設の増築工事を行っている。

◎今後の利用見込みについてはどうか。

〈市長〉児童数は減少しているが、利用割合は年々増加しており、各地区において微増傾向が続くものと捉えている。

◎今後の対策についてはどうか。

〈市長〉適正運営の確保や施設環境の整備に努めていくが、赤湯沖郷地区については、第二学童との割振りを調整し、推移を見ながら対応していく。

## 法「改正」後の介護保険について

佐藤 明 議員



◎4月に「改正」介護保険法が施行され、制度の見直しによる問題はないか。実態は。

〈市長〉現時点で利用者や現場での混乱等は「ない」と聞いている。

◎見直しによる生活援助の時間短縮をはじめ、新たな利用制限や基幹的サービスの基本報酬の大幅な引き下げ、たんの吸引など介護職員による医療行為「容認」は、利用者や事業所で働く職員にとっても重大な影響をもたらしているが見直し等の考えはないか。

〈市長〉全国的なサービス提供実態を踏まえ、限られた人材の効果的な活用を図り、ニーズに応じたサービスを効率的に提供する観点から時間区分の見直しが行われたものである。

◎事業所の経営・運営をめぐって減収が予測され、事業所の存続にかかわる深刻な影響も出てくるのでは。

〈市長〉現時点ではお聞きしていないが、一部事業所では昨年度と比較して、減収になるのではと心配しているところもあるようだ。

◎介護職員処遇改善交付金が介護報酬に組み込まれ、処遇改善加算が新設されたが、介護職員の処遇改善は進んでいるのか。

〈市長〉昨年度の交付金交付要件と同様の考え方で、各事業所の賃金改善計画に基づき適正に処理されている。

◎介護現場や利用者からも改善を求める声が出ている。その対応はどうか。

〈市長〉制度改正から5ヶ月。今後、実態調査をしながら国・県に要望して参りたい。

# 厳しい財政状況の中 自主財源確保は極めて重要 市長一丁寧な納税相談と毅然とした 滞納処分で改善に取り組む

山口 正雄 議員



◎市税、国民健康保険の収納率及び収納未済額はどうなっているのか。

〈市長〉昨年度の収納率は、市税で98.8%、国民健康保険税で94.2%となり、13市の中でも上位となっている。23年度決算での収入未済額は、市税で約2億6千万円、国民健康保険税で約3億1千万円、合計5億7千万円となっている。バブル崩壊後から増え始めたが、平成22年度から2年連続で減少しており、今後も収納率の向上と合わせて、滞納処分を積極的に収入未済額の縮減に取り組んでいきたい。

◎収入未済額が市政に与える影響はどうか。

〈市長〉長期にわたる蓄積の結果とはいえ、かなりの金額が本来収

入となるべきものなので、市政への影響は少なくないと考えている。自主財源の観点からも重要な課題と捉えている。

◎更なる収納率改善をはかる上での課題と改善策は。

〈市長〉新たな滞納者を出さないことを第一に取り組んでいる。未納者には、電話や文書による催告を行い、それでも納税して頂けない場合は、厳しく差押え処分を行っていく。事情がある方には、納税相談による分納指導を行っている。また、コンビ二収納も開始し、納税しやすい環境にも力をいれている。小学生を対象に租税教室を実施し、納税の意義や役割を正しく理解してもらおうための取り組みも実施している。

# 学校図書の充実や 観光南陽としての赤湯駅の バリアフリー化は

板垣致江子 議員



◎大津市の自殺問題を受け、市の対応状況は。

〈教育長〉文科省からの通達で行った緊急アンケートの結果、市内小中11校でいじめに該当する報告はなかった。7月に教育相談室の相談員が各校を訪問し確認。さらに未然防止に絞った臨時招集校長会を開くなど対応を徹底。不登校の状況は12名となっている。今年度より週5日間開設となった教育相談室や学校との連携で、相談機能の更なる充実を図り未然防止に努める。

◎予算措置されたとする図書購入事業、新聞の活用、学校司書配置の取り組みは。

〈教育長〉学校図書館図書標準に対し平均で小学校99%中学校62%の充足率。その低い学校への予算配分は今後

検討。新聞の活用は社会科を中心に各学校で取り組んでいる。学校司書はすぐの配置はない。

◎地域資源を活かした新たな産業ブランド化の成果や今後の取組は。

〈市長〉昨年度重点分野雇用創出を活用し商品開発。無添加で安心安全な食品製造をコンセプトに漬物を中心に20品目を試作販売したが、保存期間などの問題もあり年度内で終了。現在は商品開発を行う企業、団体に助成。6次産業化もハードルは高いが、国県の補助と共に力を入れていく。

◎赤湯駅入口のドアは重く、障がい者やお年寄りには不便で危険。自動ドアの設置は。

〈市長〉自動ドアについては今後JRと協議しながら検討していく。



・災害対策本部をより効果的に見直し  
・地方財政に関する請願は継続

◆南陽市防災関係条例の改正について

災害発生時、地方防

災会議で災害に関する情報の収集等を行うより、都道府県または市町村に設置される災害対策本部において一元的にそれらの事務を行うことが効果的であることから、地方防災会議と災害対策本部の所掌事務について、見直し・明確化が行われた。地方防災会議については、防災に関する諮問的機関としての機能を強化する観点から、多様な主体の参画を図るため、自主防災組織を構成する者または学識経験のある者を地方防災会議の委員に選任できることとされた。

以上の改正に伴い、条例の一部を改正するもので、全員異議なく原案のとおり可決した。

◆地方財政の充実・強化を求める請願について

本請願は、地方の経済状況が依然として停滞しているなか、地域の雇用確保、社会保障の充実など、地域のセーフティネットとしての地方自治体が果たす役割はますます重要となることから、来年度予算においても、地方財政予算全体の安全確保に向けて、政府関係機関に意見書の提出を求めるものである。

委員から、大変重要な要望であり、地方財政に対する対応を求めることは大変良いことであるが、現在の国政では先が見えず、もう少し国政が安定してから提出するべきとの意見があり、全員異議なく継続審査と決した。  
(委員長 吉田 美枝)

行政視察レポート

・極寒地帯の太陽光発電システム  
・ちよつとおしゃれな田舎町 富良野

◆日本の最北端、稚内市『省エネルギー推進事業について』

東京ドーム約3個分の広い敷地に発電パネルを設置した壮大な稚内メガソーラー発電所は、一般家庭1700世帯分の電力を賄っている。積雪・寒冷・強風と気象条件が厳しい中で、大規模太陽光発電の安定化を図るために蓄電池に貯蔵し、必要ときに放出するシステムがとられていた。風の強い宗谷岬には57基の風力発電機が設置され、稚内市全消費電力量約7割に相当する発電量を賄っている。



稚内市役所での研修

◆景観美誇る、富良野市『中心市街地活性化基本計画について』

年間約200万人の観光客を中心市街地に流入すべく、民間主導型の事業を展開。商業の魅力を高め、ちよつとおしゃれな田舎町のイメージで、富良野の食材や加工食品を活か

した集客施設(フラノ・マルシエ)がまちの中心にあり、それが見事に機能。飲食モールやイベント広場もそこに整備されており、多くの市民、観光客が訪れ、まちの賑わいが創出されていた。

(7月11日から13日)

(委員長 吉田 美枝)



富良野市役所での研修

# 脳脊髄液減少症の医療について 国への意見書提出を決める

文教厚生  
常任委員会

◆山形県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更について

住民基本台帳法の一部改正に伴い、山形県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更については、広域連合を構成する地方議会の議決を経て協議する必要があり、審査の結果、全員異議なく原案のとおり可決した。

◆脳脊髄液減少症の医療についての請願について

本請願は、脳脊髄液減少症の治療を全面的に保険適用し、地域の病院で治療が受けられることを国に対して意見書提出を求めるもの。当局より、交通事故、スポーツなどの衝撃で脳や脊髄を覆う硬膜が損傷し、髄液が漏れ、頭痛、めまい、全身の

倦怠感など様々な症状を起こす病気で、患者自身の血液を注入し、

損傷部を塞ぐブラットパッチ療法が有効な治療とされることなどの説明を受けた。

委員より、ブラットパッチ治療の安全性、有効性を一日でも早く確立し、地域の病院に広めて頂き、治療法を全面的に保険適用し、医療費窓口負担の軽減を要望する意見が出され、審査の結果、全員異議なく採択した。

意見書への記載事項

脳脊髄液減少症のブラットパッチ治療を全面的に保険適用し、地域の病院でも治療を受けられること。また、医療費窓口負担の軽減を図ることを求め、意見書を国の関係機関に提出する。

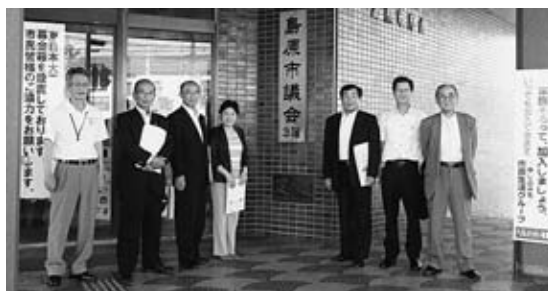
(委員長 高橋 弘)

## 行政視察レポート

# 長崎県島原市に学ぶ、子ども達の安全を守る見守りシステム I-Cタグの活用

7月17日から19日の

日程で、長崎県島原市、雲仙市を行政視察。島原市では、地域児童見守りシステム事業について視察した。近年、児童に対するいろいろな問題が発生している現状の中、市内小学校の10校の主に1、2年生751人を対象にI-Cタグを持たせ、校門を通過した時にタグを読み取り、映像情報で登下校を把握するというシステムを構築していた。島原市はうしろに雲仙普賢岳をひかえ、万が一の場合の防災システムが完備されてお



島原市役所での研修

り、それを有効活用してこのシステムができたと感じた。

2日目は、雲仙市の『地域ふれ愛、ささえ愛』推進モデル事業及び高齢者福祉事業について視察した。近年、地域

の希薄化が問題になってきているなか、中学生もまきこんで、買物の手伝い、病院などの付き添い、話し相手などの支援事業を行っていた。

(委員長 高橋 弘)



雲仙市役所での研修

※I-Cタグ…電波を受けて働く小型電子装置の一つで、人や物の移動を知ることができる

# 企業立地促進条例を全部改正 取得要件を2億以上から3千万円以上に引き下げ

産業建設  
常任委員会

◆南陽市企業立地促進  
条例の設定について

企業誘致の促進及び立地企業の定着、雇用の拡大を図る目的に、企業立地に対する奨励措置を拡充するため、条例の全部を改正するもの。改正内容は、事業所の新設及び増設（空き事業所、工場を取得する場合も含める。）に要した投下資本額は、家屋と土地の取得価格の要件を2億円以上から3千万円以上に引き下げる、奨励金については、家屋及び土地に係る固定資産税相当額を3年間交付する。指定される業種は「企業立地促進法」に基づき、同意基本計画に定める業種とするものとし、全員異議なく原案のとおり可決した。

◆南陽市道路線の廃止  
について

廃止路線は2路線で、1つは主要地方道山形南陽線中里工区の完成に伴う起点変更によるもの。もう1つは民間宅地開発で整備された団地内道路の寄附を受け、路線の一体性を考慮し一旦廃止するもの。

◆南陽市道路線の認定  
について

中里4号線は中里工区道路新設により起点変更に伴う再認定。また、移管される一部区間の計487mの片岡中里線として新たに認定する。他4路線は民間宅地開発整備の道路の寄附に伴い新たに認定するもので現地で説明を受け審査した結果、全員異議なく原案のとおり可決した。

(委員長 白鳥 雅巳)

行政視察レポート

●不動産事業者と協同し企業誘致 さぬき市  
●木質バイオマスタウン構想 真庭市

7月9日～11日の日程で、香川県さぬき市と岡山県真庭市を視察研修。

さぬき市は香川県不動産事業協同組合と「企業誘致に係る不動産情報提供等に関する協定」を締結し、用地情報把握に向けた体制

や、市所有地への立地を希望する企業に優遇制度を紹介するホームページを開設し、企業誘致に向けた取り組みを図っていた。

真庭市では、市内の森林面積が79%であることから、豊富な木質資源を利用した長期的

なバイオマスタウン構想を産官学一体となつて取り組んでいる。

研修では、市観光連盟が運営するバイオマス活用各施設を見て回る日帰りコースを利用し、原料を安定供給する木材集積施設等を視察。その中で、見学した木材加工会社では、木材加工の過程で発生する不用品材片などを燃焼させ、その熱エネルギーを機械の電力に変換し、動力の一部として賄っていた。本市においても、再生資源活用の取り組みも必要と感じた視察であった。



木質バイオマスで発電している真庭市役所

(委員長 白鳥 雅巳)

※正式名称は、「企業立地等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律」

# 6つの条件付きで建設に向けた取組を是とする

## 新文化会館建設 検討特別委員会

### 8回の委員会を重ね議会で中間報告

新文化会館の建設は、芸術文化を創造する拠点づくりという本市の一大事業となることから早期の着工を望む声がある一方、多額の事業費を要するため、市の財政状況を懸念する声もあります。

当委員会では、それらの様々な声に真摯に耳を傾け、まずは建設の是非について結論を出すべきであるとの判断をしました。

南陽市が持続的に発展していくためには、未来の若者たちに過度の財政負担を残すべきではないとの認識から、議論の中で一番の時間を費やした最も重要なポイントが、市財政の現況及び今後の見通しについてです。

市当局が示した平成34年度までの財政シミュレーションを基に、

特に実質公債費比率の推移と、建設による市債の発行がどの程度財政に影響を与えるかなどが論点となりました。

#### 主な委員発言

●人口が減っていく中で、南陽市に人を呼び戻す方策を考慮した建物にすべきだ。

●建物だけでなく道路整備等建物に付随する事業はどの程度かかるか。

●働く場所の確保、子育て支援など人口減に歯止めをかける支援策が手薄にならないように。

●運営経費を減らすには、企業のネーミングライツを検討してはどうか。

議論を総括すると、直近の平成23年度実質公債費比率は、財政シミュレーションを0.1ポイント下回る19.0%

となり順調に低下しており今後更なる改善が見込まれること。また、建設財源となる「総合文化施設整備基金積立金」と「財政調整基金積立金」の合計額は13億21万1千円となり、目標額まで約2億8千万円となったことから、建設財源として12億円の取り崩しは十分可能であること。さらに財政シミュレーションには、各年度の財政支出額に政策予算も通年ベースで含まれており、他の新規事業を過度に抑制することなく財政運営が可能と考えられます。

し、市民各層の意見をとりまとめる作業中であること、さらに市報等による広報を行うなど、建設への理解が相当地度浸透していることを鑑み、当委員会としては、

①市債発行額は9億6千万円を上限とすること。

②有利な補助金・交付金の確保に努めること。

③施設の維持管理費の低減に努めること。

④他の新規事業を過度に抑制しないこと。

⑤建設場所は用地買収の必要がない場所とすること。なお、市所有地であり市外からの利用等も考慮し公共交通機関に近いことから、市役所南側用地を候補とする。

⑥芸術文化の拠点施設とすることはもちろん、市民各層が利用できる憩いの場としての機能も検討すること。

の6点を前提条件のもと新文化会館の建設に向けた取組を是とすることになりました。

なお、建設時期、施設の規模、付帯施設等は、今後策定作業が進む基本構想・基本設計の推移を見守りながら委員会としての意見を提言してまいります。

(委員長 伊藤 俊美)



中間報告を遠藤議長に手渡す

## 議会報告

# 置賜広域行政事務組合

9月3日臨時会及び全員協議会が開催され、次のことが決定されました。

◎消防救急無線デジタル化整備事業請負契約の締結について

アナログ通信方式が平成28年5月で終了することから、デジタル化整備事業が今年度より本格的に進められます。

契約相手方

㈱富士通ゼネラル東北  
情報通信ネットワーク  
営業部  
契約金  
12億4740万円

工期

平成26年3月19日

◎平成24年一般会計補

正予算

南陽やすらぎ荘を平



平成32年度民設民営化が予定されている南陽やすらぎ荘

成32年度から民設民営に移行することから、移行するまでの対応として平成25年度から31年度まで給食業務を直営から民間に7年間委託するもの。そのため債務負担行為に係る補正予算です。

債務負担行為予算限度額は3億6405万円余りです。



「ゆるっと」パークゴルフ場増設工事

◎「ゆるっと」パークゴルフ場増設工事本格始動

9月よりパークゴルフ場の増設(1コース)工事がスタートしました。

また既存コースの芝の育成が悪い箇所もあわせて施工されます。そのため9月より平成26年8月頃まで営業休止されます。オープンはその以降となります。(置広議員 片平 志朗)

# 議会傍聴

お茶の間で

## 議会本会議 インターネット配信開始

市議会の模様が、南陽市ホームページの市議会のページで10月から見られるようになりました。

本会議(開会、閉会、一般質問)について、9月定例会は録画で、12月定例会からは生中継で見ることがができます。「開かれた議会」を実現するため、議会の総意として実施しました。議員、当局双方とも、緊張感を持って、より深い政策議論を目指します。



本会議の様を視聴できる市議会のページ  
(アドレスは表紙最下段に記載)

## 表紙の写真



「走れ跳べ守れを目標に  
努力しています！」

結成以来25年を超え、数々の大会で好成績を収めています。今年は赤湯小学校の2年生から6年生まで男女合わせ21名の団員で月・木・土曜日の週3回の練習と各種大会やレクリエーションに積極的に参加しています。バスケットボールを通し、協力しあい心身を鍛え、人間性を高める「あきらめない!目標に向かって取りくんでいく」を目的としています。

# 南陽市議会 VS 赤湯中学校ソフトボール部

## ソフトボール親善試合 感想

赤湯中学校3年 ソフトボール部主将 中條 志保

私達は7月27日に、赤湯中学校グラウンドで、南陽市議会議員の方々とソフトボールの親善試合をしました。とても暑く、日差しが照りつける中、汗を流しながら懸命にボールを追いかけて、一緒にソフトボールを楽しみました。結果は私達が勝ちましたが、勝ち負けよりも、今まで私達がやってきたソフトボールとは違う楽しさや面白さを感じ取ることが出来て、自分のソフトボールに対する視野がまた一つ大きくなった気がします。市議会議員の方々は、とてもパワーがあり、ホームランを何本も打たれたときには驚きました。私達との試合のために早朝の練習もしてくださったそうで、ソフトボールに対する熱い思いから、私達の方がかえって元気をいただきました。今度は私達が皆さんに元気をあげられるように、これからも大好きなソフトボールを続け、南陽市を活性化させる一助になるよう、明るく元気な声をグラウンドに響かせていきたいです。



よろしくお願いま〜す。

### 議員研修会

## 原発を考える

講師 中部大学教授 武田 邦彦氏

8月6日山形市ビッ

グウィングにて市議会議長会主催の研修会が開催されました。要旨は次のとおりです。

40歳半ばまで旭化成工業(株)ウラン濃縮研究所長を務め原子力研究に携わってきた。自分は安全な原子力



真剣に聴講する議員

推進派だが、「地震で倒れるような原発をつくったら日本はダメになる」という一貫した持論の下、職を辞した。地震地帯に立っている原発は日本だけでなく、アメリカ人の設計だから耐震設計が震度5強くらいで設計上

爆発する。それを安全だと言ってごまかしてはいけない。本当に安全だったら消費地の東京や大阪につくればいいのに、Bクラスの地域、福島、新潟、福井などにつくっている。フランスはセーヌ川やロワール川の上流に原発がある。また、福島原発の事故は「電源が切れたらすべては終わり」という構造的な欠陥だった。緊急炉心冷却装置の設計も通常運転の冷却と同じで安全ではない。

### 編集後記



日ごとに秋色いよいよ深まり、夜長の季節となりました。議会だよりを読んでいただき、ありがとうございます。

議会では、本会議のインターネット配信、議会だよりの紙面刷新など、「開かれた議会」を目指した取り組みを行っています。

よりわかりやすい、親しみやすい紙面作りのため、編集委員一同、試行錯誤を繰り返しています。落ち着くまでの間、レイアウトが変わる部分がありますが、ご理解いただけますようお願いいたします。

編集委員長 片平志朗  
副委員長 山口正雄  
委員 白岩孝夫  
高橋一郎  
船山利美  
吉田美枝